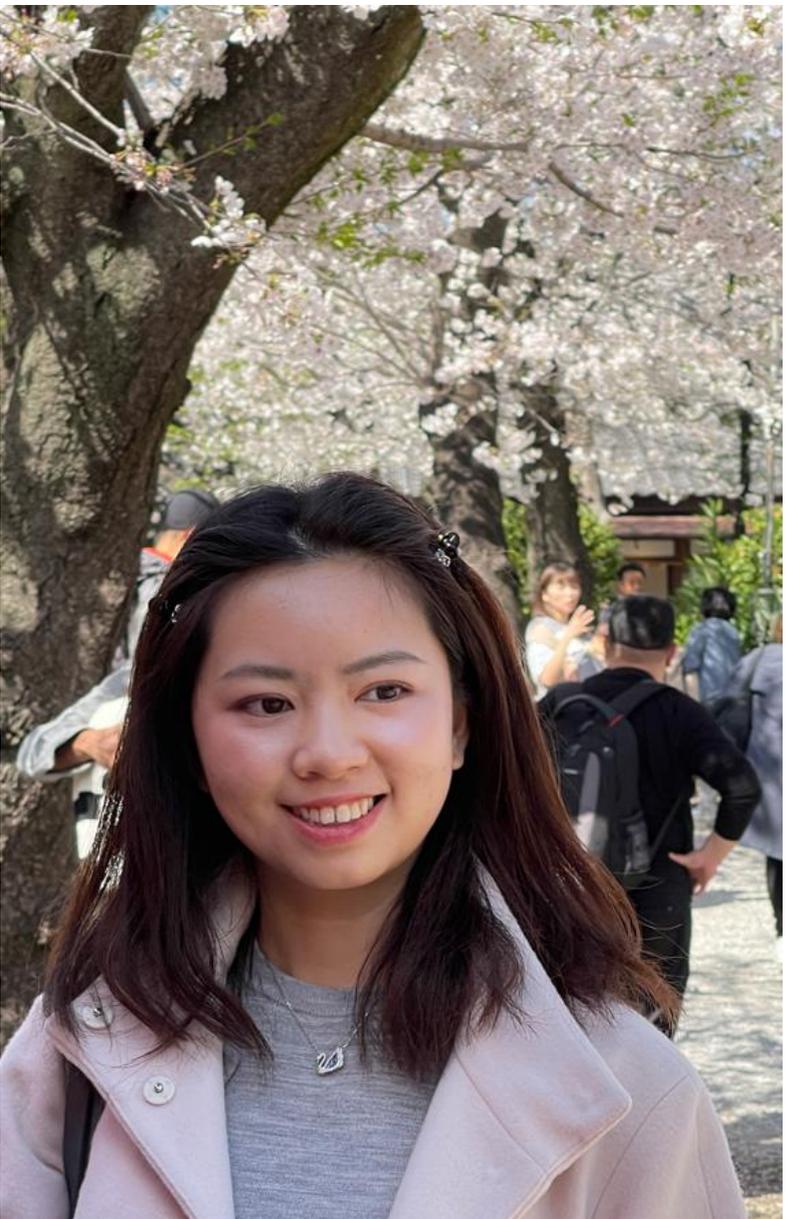


去龍谷

四年齷齪不足誇
今朝卒業思無涯
春風得意歸鄉里
一日看尽京都花

令和七年三月九日

大中臣正比呂



言葉も十分でなかった頃に見初めた君は、八年にも渡る留学を全うして
故国に帰ると言う。歸去來辭は残された老人にとっては辛いものだ。
卒業おめでとう。